

## 1-2. 修士論文へのステップ

修士論文の執筆は、修士課程の締めくくりとして、とても重要な位置づけを占めています。また、博士課程進学希望者にとっては、執筆された修士論文および研究発表が進学試験も兼ねたものとなります。修士論文の作成を支援するために、国際協力学専攻では次のようなステップをおいています。

下記の日程を目安に、研究の計画を立ててください。なお、この日程は従来例を踏まえた暫定的なもので、今年度の最終的なものではありません。日程については、確定次第、メーリングリスト経由で周知します。

	4月入学生	10月入学生
①プロポーザル発表会	5月下旬	12月上旬
②中間発表会	9月下旬	4月下旬
③修士論文提出	1月中旬	7月上旬
④最終発表会	2月上旬	7月下旬

注. 実施時期はいずれも修士2年次の月とする

### ① プロポーザル発表会

修士論文への最初のステップがプロポーザル発表会です。但し、国際協力学専攻ではプロポーザル発表会を修了のための要件とはしていません。従って、プロポーザルを行わずに次のステップである中間発表会に進むことも出来ます。

指導教員と相談の上、プロポーザルを行うか否かを決めて下さい。プロポーザルを発表しなかったことが、その後のプロセスなどに於ける不利益となることは一切ありません。プロポーザル発表会の発表者には事前に発表要旨（A4用紙2枚以内）を提出していただきます。要旨の提出期限、発表会の実施要領などの具体的な情報は開催時期が近づいた時に改めてメーリングリストで周知します。

### ② 中間発表会

中間発表会は修了のためには必須であり、中間発表を行わずに修士論文の提出あるいは最終発表会に進むことは出来ません。

プロポーザル発表会同様、中間発表会においても事前に発表要旨の提出が必要です。提出の方法、期日、具体的な提出先などは、その時期が近付いたらメーリングリスト経由で周知します。

中間発表は在学中に1回のみ行えば良く、休学などによって修了する時期が遅延しても、再度中間発表を行う必要はありません。

### ③&④ 修士論文提出と最終発表会

修士論文提出から最終発表会までの流れは以下の通りです。詳細については時期が近づいた時にメーリングリスト経由で案内します。

(以下の開催月は全て4月入学生(3月修了)の場合です)

#### Box 1-2. 修士論文最終発表時の手続き

##### i) 副査二人を選定して名前を連絡

1月上旬の定められた期日までに副査二人を選定して、その名前を教務委員に連絡する必要があります。

副査は、(協力講座と連携講座を含む)専攻に所属する教授あるいは准教授から選定します。但し、東京大学の修士課程指導資格を有する教員(学外の機関に所属する者を含む)を1名に限り副査とすることもできます。副査の選定は論文のテーマに大きく関係します。その選定に際しては指導教員との連絡を密にしてください。副査となることを依頼するのは学生本人または指導教員の何れであるかに関して、専攻では規定を設けていません。指導教員と相談の上、誰が依頼するかを決めて下さい。また、副査の氏名を上記提出先まで連絡する前に、依頼した副査本人から必ず承諾を得て下さい。

##### ii) 修士論文題目を提出

1月中旬の定められた期日までに、修士論文題目を専攻に提出します。修士論文題目の提出がない場合は、論文審査は行われません。

##### iii) 修士論文(紙媒体)を提出

1月中旬の定められた期日に、専攻の事務室に修士論文を提出します。修士論文の提出が遅れた場合、論文審査は行われません。

##### iv) 修士論文要旨および本文(電子版)を提出

1月下旬の定められた期日に、修士論文要旨と保存・公開用修士論文、修士論文要旨(いずれも紙媒体)、修士論文の電子版を納めたCD、関連書類を提出します。

##### v) 最終発表会

1月下旬から2月上旬に最終発表会が開催されます。